

【基本目標】世界に誇れる環境の街さっぽろ

【重点戦略課題】水とみどりのうるおいと安らぎのある街の実現

現状と課題

都市イメージを形成する水とみどり

市政世論調査によると、98%に上る札幌市民が『札幌が好き』と回答をしており、その理由としては、多くの市民が、「緑が多く自然がゆたか」であるとか「四季が明瞭」など自然と調和した都市イメージを挙げている（図1参照）。

今後も、札幌の魅力と個性を形成する水やみどりなどの自然環境を、以下のような課題を踏まえて、守り・育て・回復する取り組みが必要である。

豊かな水環境と都市化の進展

札幌は、豊かな自然を有する山地を源とする多くの河川が流れ、上流域で豊かな水量を保っている。都市化の進展による雨水の地下浸透量の減少などにより、支流や市街地内の河川では、河川水量が減少し、生物が生息し、人々が憩う場としての姿が失われているところがある。

一部の河川では水質悪化が生じているほか、人が近づきにくい構造のため地域住民の関心が薄れてしまっている水辺も見られる（図2、図3、図4参照）。

良好な水質を確保するとともに、川に水の流れを取り戻し、市民が自然とふれあえる良好な水辺を創出していく必要がある（図5参照）。

都市化の進展とみどりの役割

これまでの公園や緑地の整備により札幌のみどりの総量は他の政令市と比べても高い水準にある（図6参照）。

都市化の進展にともなって、市街地周辺、市街地内のみどりは減少しており、郊外との地域格差も見られる（図7参照）。

地球環境問題や生物多様性の確保といった環境保全の観点からも、みどりの役割に対する期待と認識は高まっている状況である（図8参照）。

市民との協働を進め、残されたみどりを守ることはもとより、新たなみどりを創出していく必要がある。

参 考

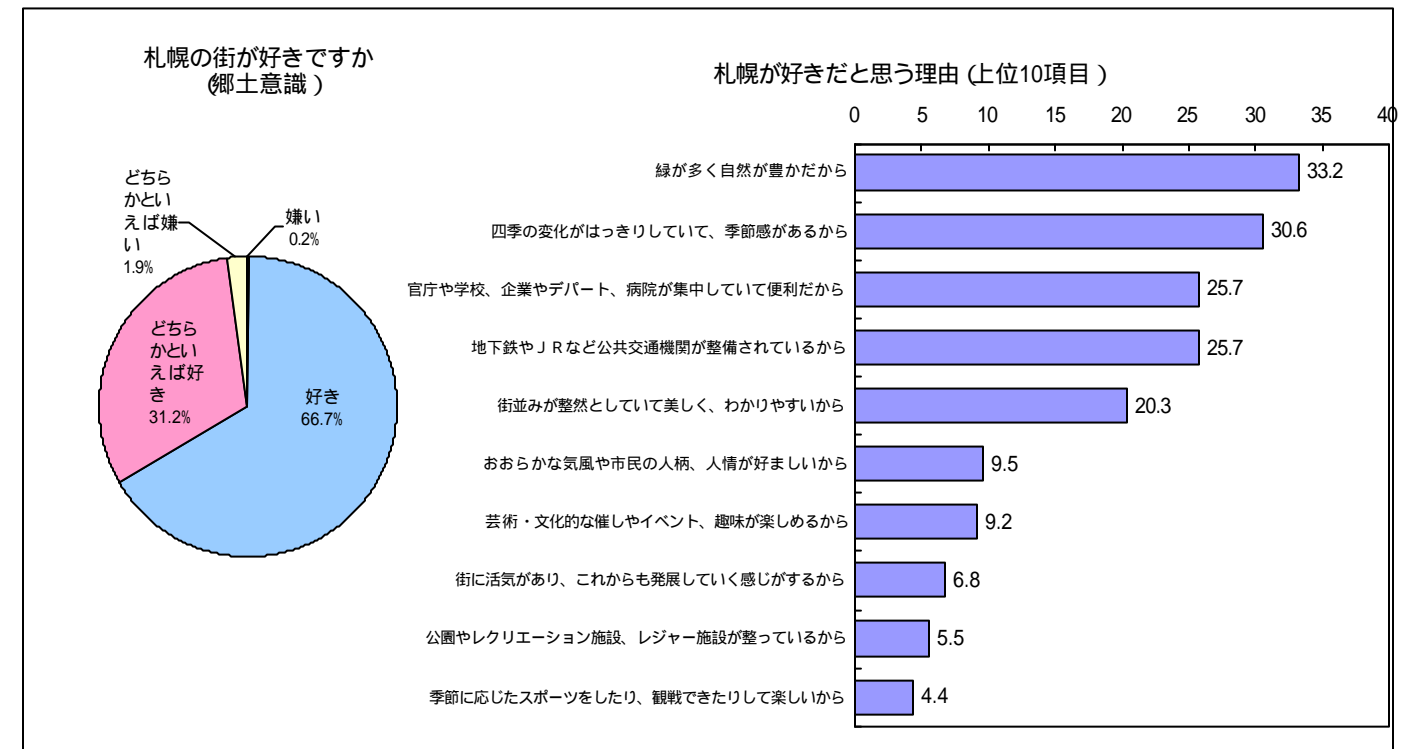


図1 平成14年度市政世論調査

・札幌の街が好きですか。
 ・札幌が「好き」又は「どちらかといえば好き」だと思う理由は何ですか。(複数回答：2つまで)

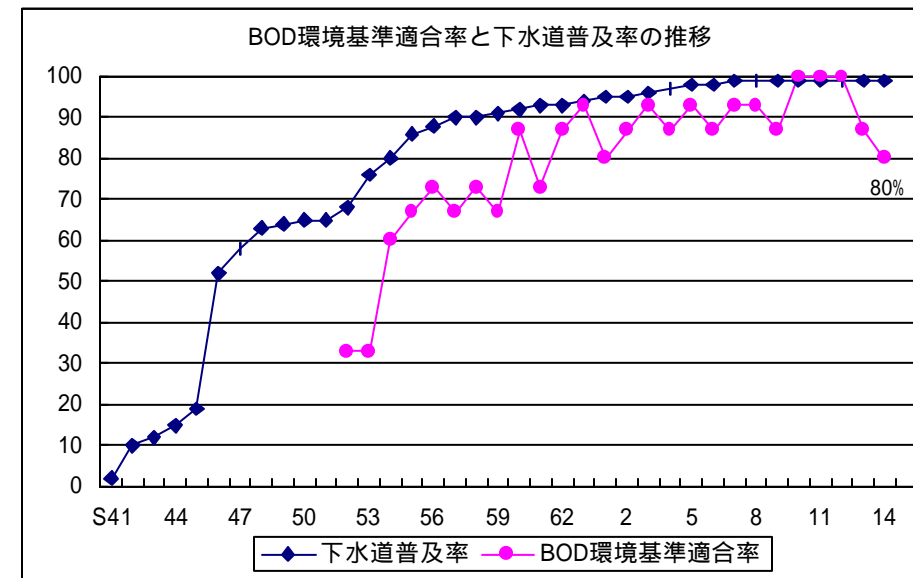


図2 BOD環境基準適合率と下水道普及率の推移(札幌市)

BODとは、河川水の有機物による汚濁の指標となる項目。
 平成14年度は環境基準点15地点のうち3地点で環境基準を超過している。
 平成12年度から環境基準点15地点のうち7地点について、BOD環境基準値を高い水準に改正。

【基本目標】世界に誇れる環境の街さっぼろ

【重点戦略課題】水とみどりのうるおいと安らぎのある街の実現

参 考

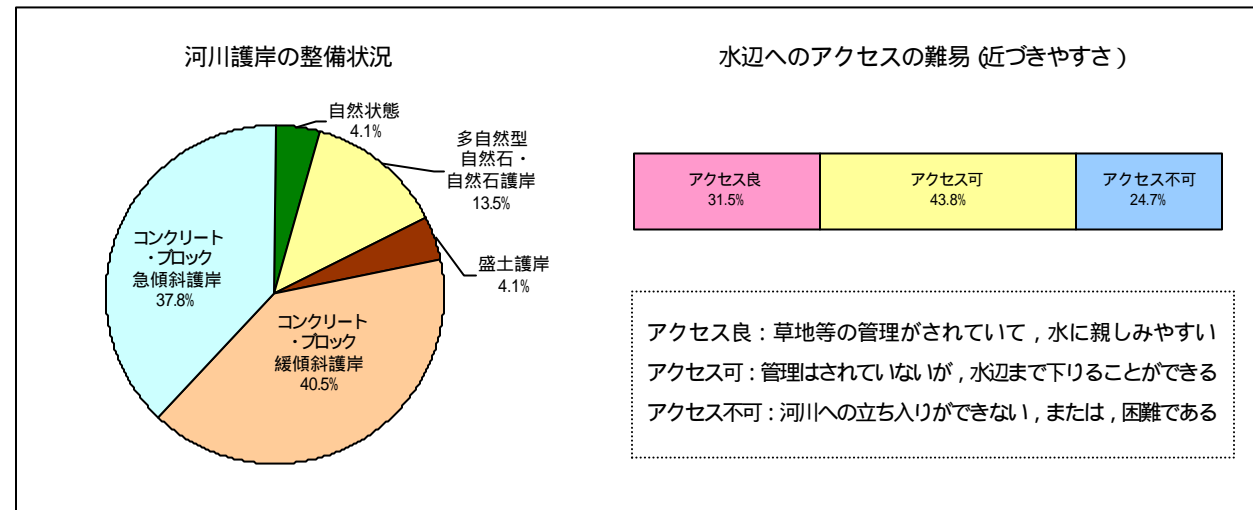


図3 河川護岸の整備状況と水辺へのアクセスの難易(近づきやすさ)(札幌市水環境計画)

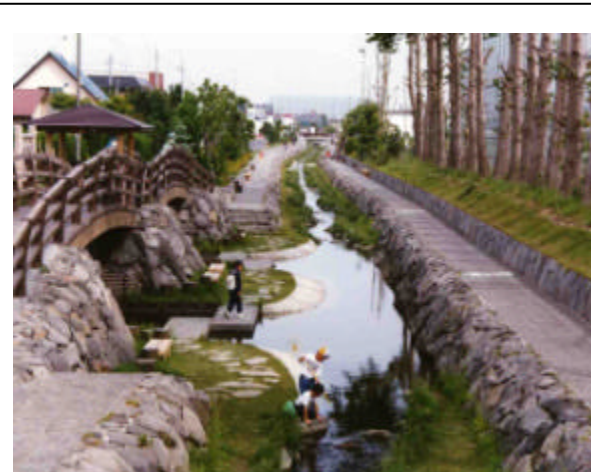


西野川



丘珠藤木川

図4 川が枯れている状況



安春川



中の川

図5 水辺へのアクセスや既存樹木保全等に特に配慮した河川

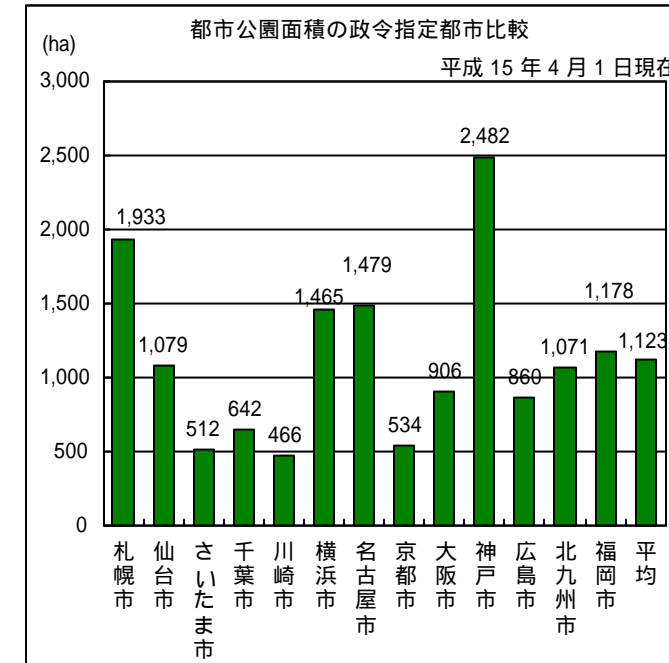


図6 都市公園面積の政令指定都市比較(札幌市)

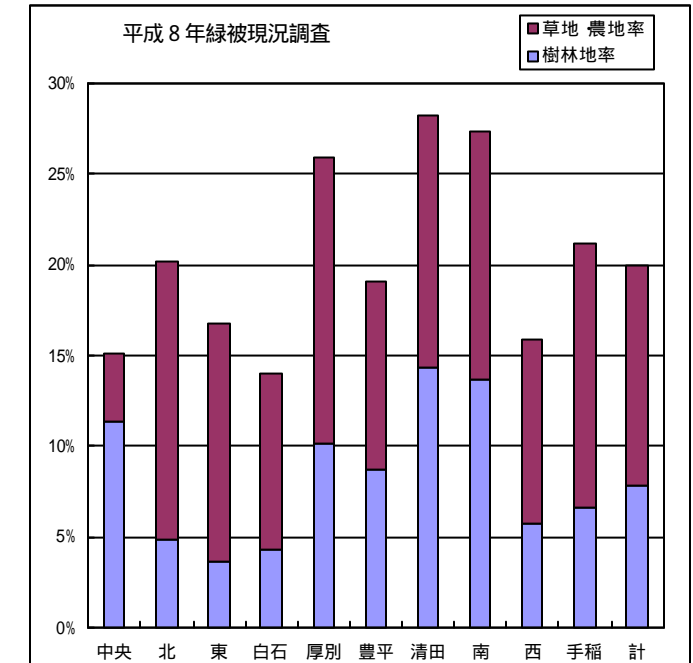


図7 平成8年緑被現況調査(札幌市)

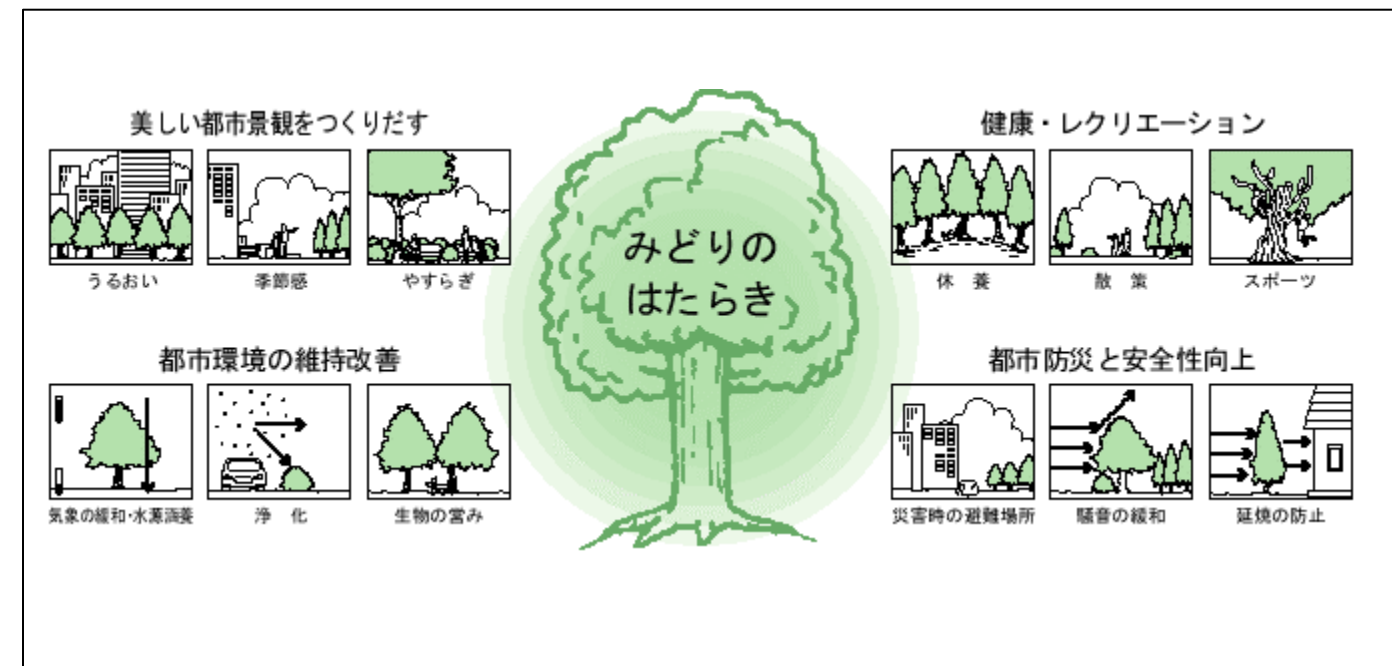


図8 みどりのはたらき(札幌市緑の基本計画)

【基本目標】世界に誇れる環境の街さっぽろ

【重点戦略課題】地球環境問題への対応と循環型社会の構築

現状と課題

環境問題の深刻化

20世紀に高度に発展した大量生産・大量消費・大量廃棄型の経済社会活動は、私たちの生活に大きな恩恵をもたらしたが、その活動規模が自然の再生・自浄能力を超えるまでに巨大化した結果、さまざまな環境問題を引きおこしている。

将来の世代に良好な環境を引継ぎながら、都市を持続的に発展させていくためにも、地球温暖化など地球規模で広がる環境問題に取り組むとともに、環境への負荷の少ない循環型社会を構築していく必要がある。

地球温暖化と二酸化炭素排出の状況

化石燃料の大量消費等により、二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスが急激に増加し、地球温暖化が急速に進んでいる(図9, 10 参照)。

札幌で排出される温室効果ガスの95%を占める二酸化炭素は、その大部分(85%)を民生部門と運輸部門が排出しており、全国と比較すると、特に民生部門の割合が高いという特徴がある(図11, 12 参照)。

市民や事業者の環境行動については、地球温暖化問題に対する危機意識がない、何をしてもいいかわからない等の理由で、多くの人が行動を起こしていない実態にあると考えられる(図13 参照)。

地球温暖化を防ぐためには、市民一人ひとりがこの問題の深刻さを認識し、日常生活や企業活動のなかで省エネルギーをはじめとする環境行動を実践していくことが強く求められる。

ごみ処理の状況と今後の見通し

札幌市のごみ処理量は、平成3年度に118万tとピークを迎えた後、事業系ごみのリサイクルの推進に加え、家庭系大型ごみの戸別収集・有料化や、容器包装の分別収集を開始したことなどから、平成10年度以降は100万tを下回るなど、減少傾向となったが、平成14年度は再び増加傾向に転じている(図14 参照)。

リサイクルの推進や有害物質の排出基準の強化などにより、今後とも多額の処理費用が見込まれる一方、新たな埋立地の確保も困難になってきていることから、ごみの発生抑制に一層取り組んでいく必要がある。

参考

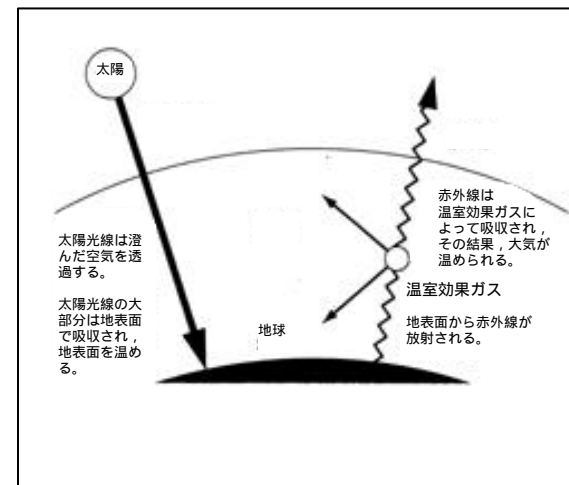


図9 地球温暖化の仕組み
(札幌市温暖化対策推進計画)

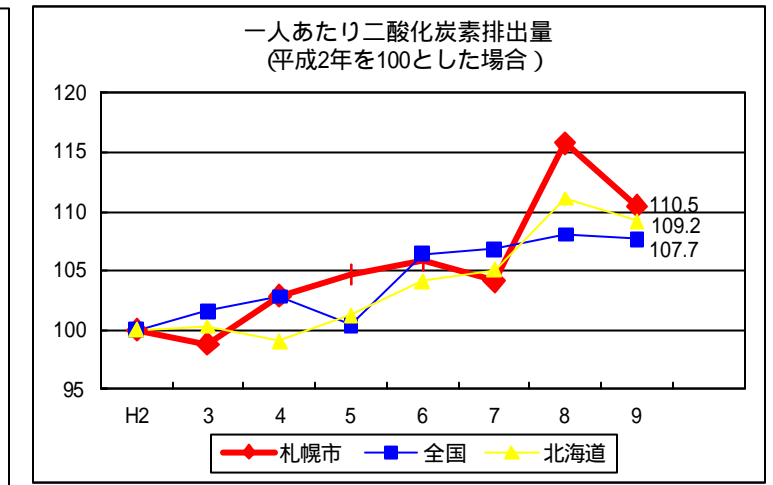


図10 一人あたり二酸化炭素排出量(平成2年を100とした場合)
(札幌市)

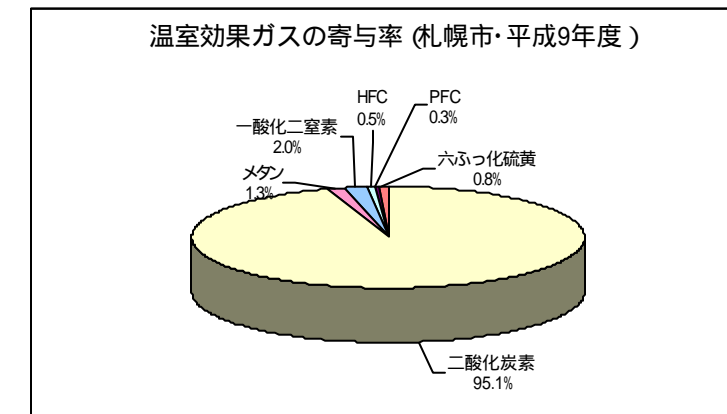


図11 温室効果ガスの寄与率
(札幌市温暖化対策推進計画)

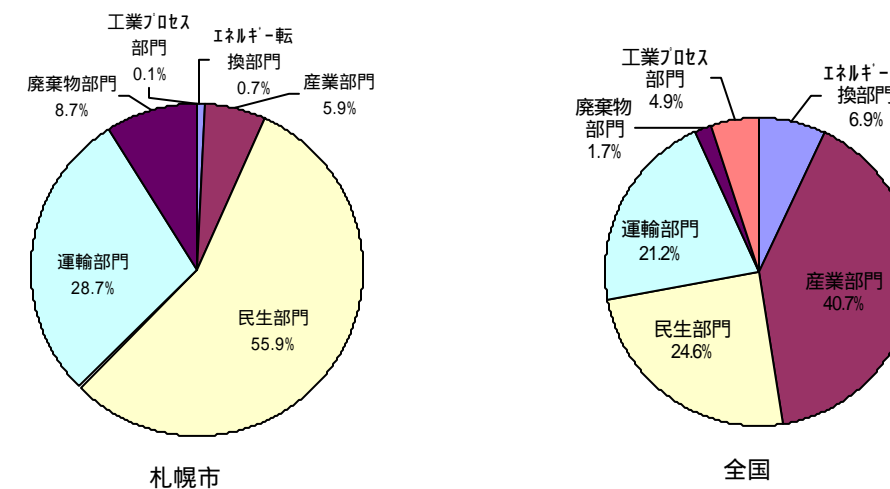


図12 部門別二酸化炭素排出量構成比(平成9年度)(札幌市)

参 考

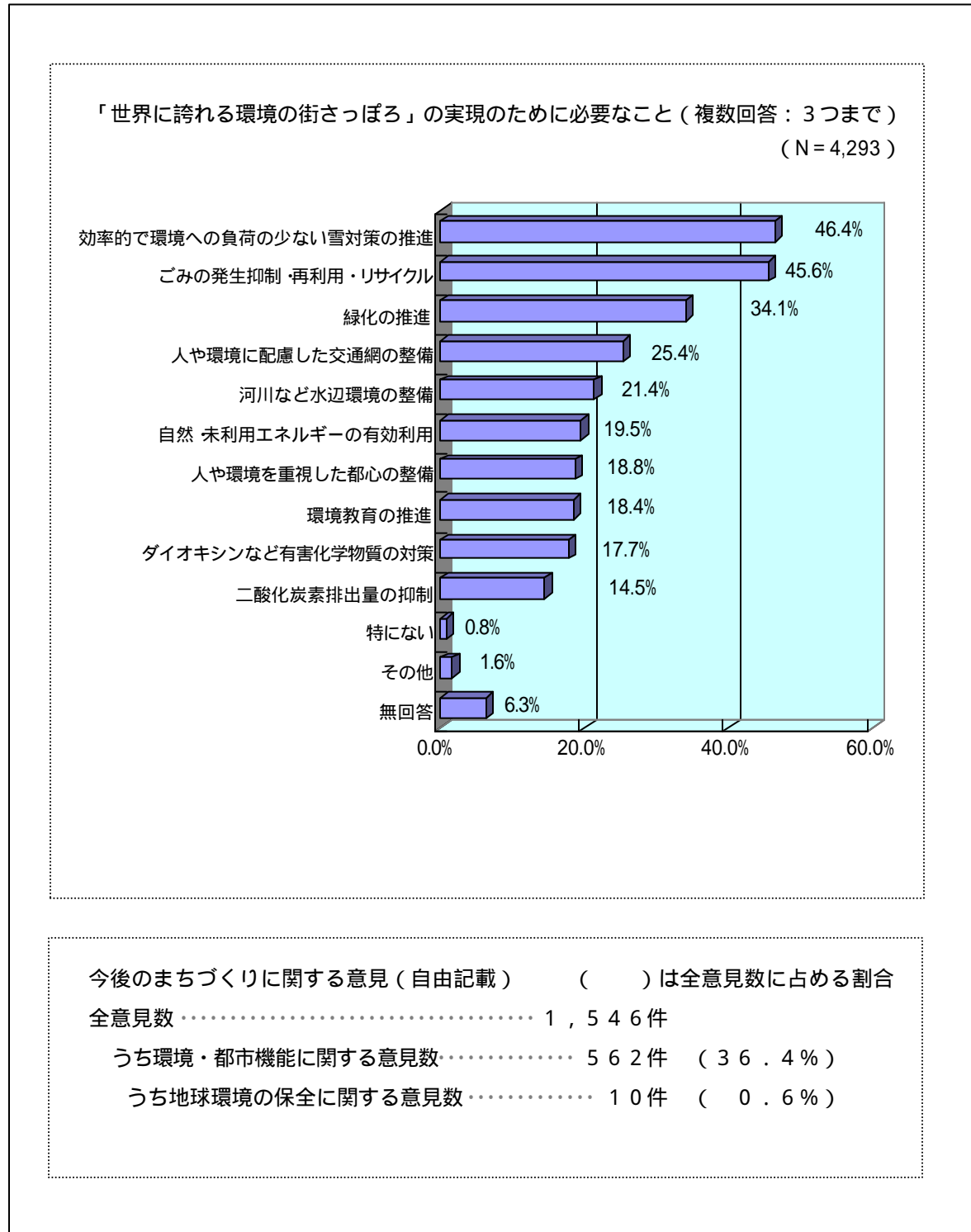


図13 平成15年度第1回市民アンケート

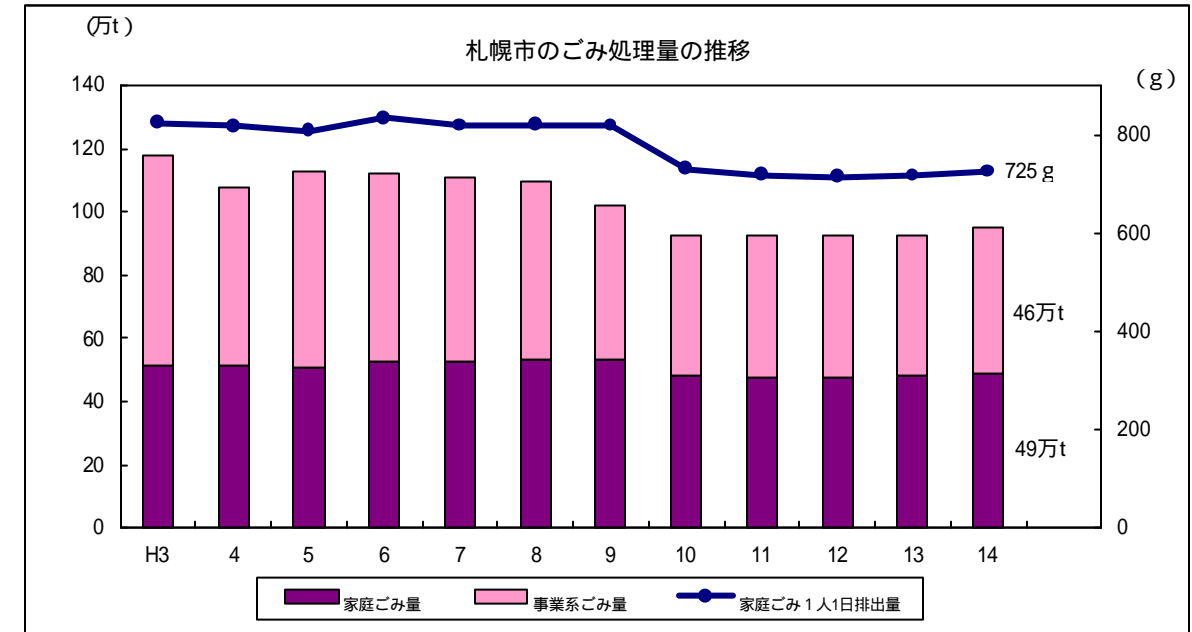


図14 札幌市のごみ処理量の推移（札幌市）

【基本目標】世界に誇れる環境の街さっぽろ
 【重点戦略課題】ゆたかな冬の暮らしの実現

現状と課題

多雪寒冷の拠点都市

札幌市は、冬期間の降雪量が5mを超え、最低気温が氷点下となる日が年間130日余りもあるなど、世界でも屈指の多雪・寒冷の大都市である（図15参照）。

多雪寒冷な気候特性は、スキーや雪まつりなどの個性的な市民文化を育み、美しい自然景観や貴重な水源などのゆたかな恵みをもたらしてきた。

その一方で、冬の暖房などに必要な多大なエネルギー消費や、市民生活を支える雪対策といった特有の課題にも取り組み続けてきた。

今後は、こうした特性や課題を踏まえて、北国らしい生活をさらに充実させていく必要がある。

雪に親しむ暮らしの状況

近年、子供たちが戸外で遊ぶ機会が減っており、それは特に冬期間に顕著になっている。また、スキーなどのウィンタースポーツについても全体的に低迷が続いている（図16、17参照）。

冬の遊びやスポーツは、健康づくりや仲間づくりなどを通じて冬の生活を豊かにする大きな市民文化であることから、活性化していくことが必要である。

除雪に対する市民要望と協働の取り組み

除雪に関する市民要望は昭和53年度以降連続して1位を占めるなど、冬の生活の大きな課題となっている。

除雪に要する経費については、除雪が必要な距離が年々延長することなどから、増加傾向を辿っている（図18参照）。

厳しさを増す財政状況のもとで、多様な市民ニーズに応えていくためにも、市民・企業・行政の役割分担を明確にした雪対策を進めていく必要がある。

また、除雪だけでなく、上手に雪を活用していく取り組みについても進めていく必要がある。

参考

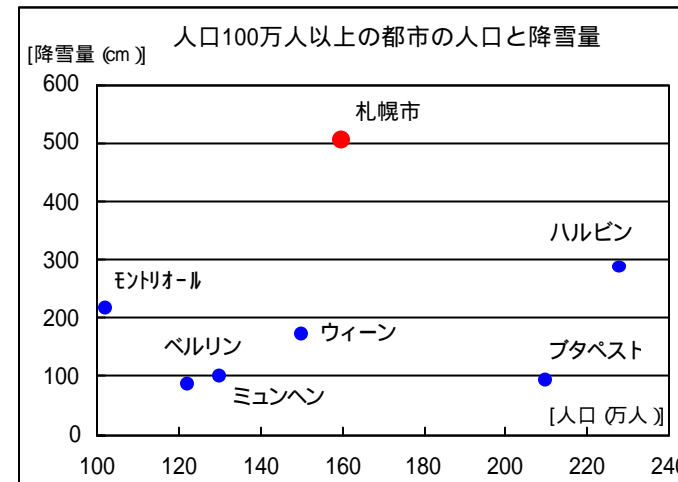


図15 人口100万人以上の都市の人口と降雪量

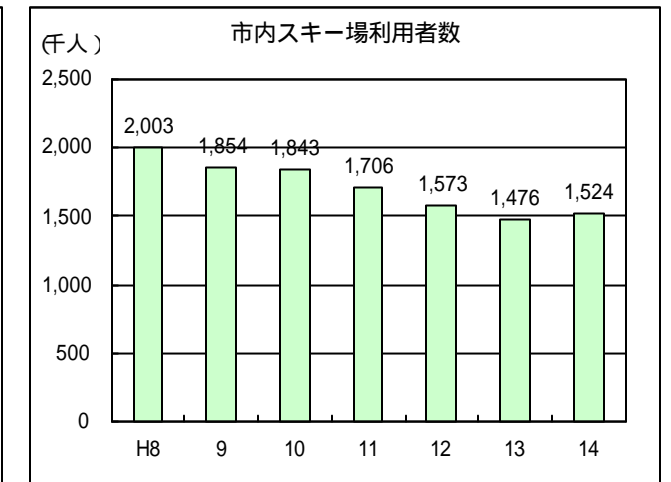


図16 市内スキー場利用者数 (札幌市)

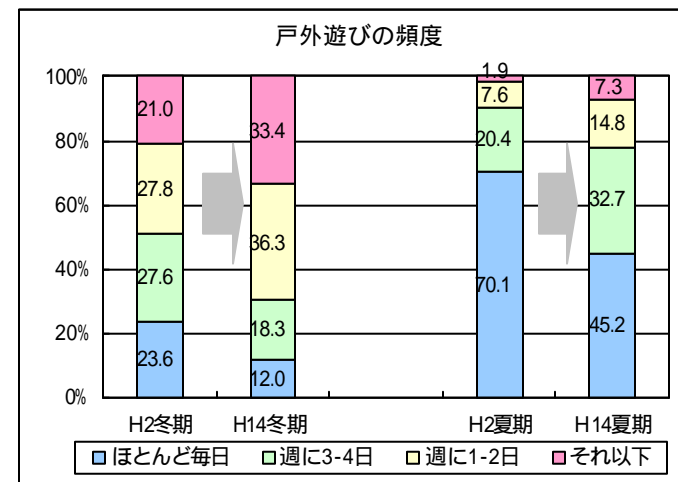


図17 小学生の冬期公園利用意識の変化 (寒冷地技術シンポジウム2002)

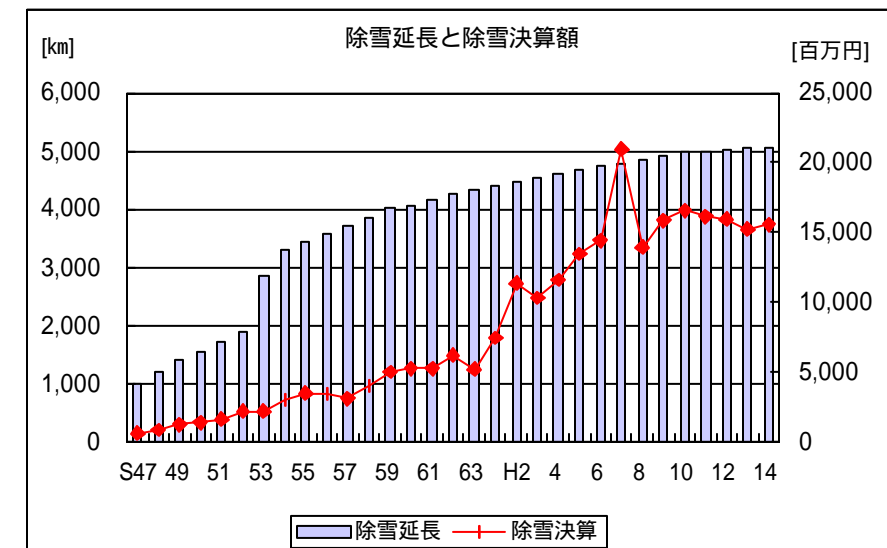
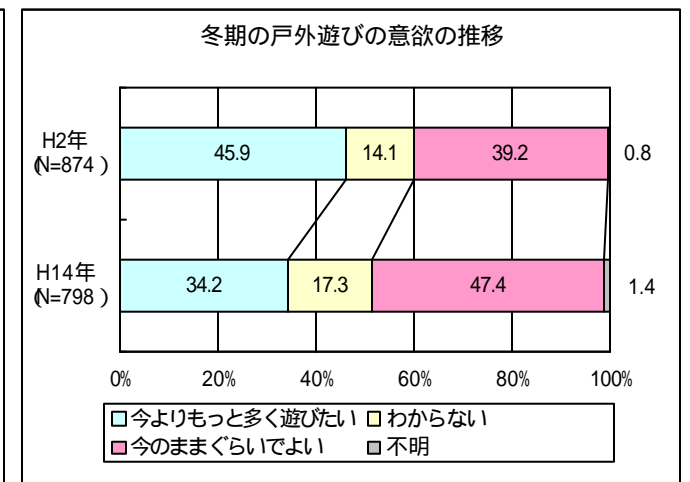


図18 除雪延長と除雪決算額 (札幌市)

【基本目標】世界に誇れる環境の街さっぽろ
 【重点戦略課題】歩いて暮らせるゆたかで快適な街の創造

現状と課題

都市の再構築の視点

少子高齢化の進展や環境問題の深刻化，財政的制約などの状況のなか，今後は既存の都市基盤を上手に活用することが重要である。

外延的拡大の抑制を基調とした市街地内に様々な拠点をバランスよく配置することや，居住機能を中心に多様な都市機能がまとまりをもって構成されることを重視して，都市構造をコンパクトに再構築していく必要がある（図 19，20 参照）。

とりわけ，都心や地域の中心など多くの人が集まる場である拠点にそれぞれの特性に応じた多様な機能と快適な空間が確保され，そこに環境負荷の少ない公共交通で誰もが容易に訪れられることが，都市生活の質を高めるうえで重要である。

減少が続く公共交通利用

地下鉄やバスなどの公共交通は，利用者の減少が続く，経営面で厳しさを増している（図 21，22 参照）。

186 万人の大都市の交通需要を効率的に処理する公共交通機関は，環境への負荷が少ないだけでなく，車を運転できない人が歩いて移動することを支える交通手段としても不可欠なものである。

今後は，札幌市における都市交通全体のあり方を検討しながら，公共交通の利用促進を図る必要がある（図 23 参照）。

地域のまちづくり

多くの人が集まる地域の中心では，生活基盤が未整備だったり，地域の活力が低下しているなど様々な課題を抱えている場合がある。

地域の中心となる拠点のなかでも，特に駅やターミナルなどがある交通の要所（交通結節点）では，交通機関相互の乗り継ぎがスムーズにできなかったり，歩行者と自転車がお互いに安心して通行することができないなどの問題も見られる状況である（図 24 参照）。

今後は，このような地域の課題に応じたまちづくりをしていく必要がある。

都心の再生

都市の拡大，成長の時代を終えたなか，これからのまちづくりは，市民の生活の質を高めるとともに，札幌を世界にアピールし，都市間競争の中で確固たる地位を築くことが重要である。

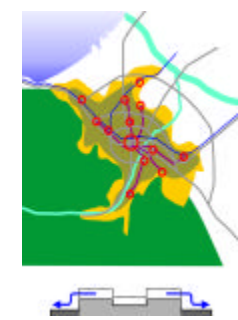
こうした取り組みを先導する都心については，消費，文化，娯楽，ビジネス，居住といったさまざまな面において，多様な選択ができるように再生していくことが必要である（図 25，26 参照）。

都心部での交通については，路上駐車や荷さばきなどにより道路が混雑し，排出ガスによる大気汚染など環境にも影響を与えていることから，適正な自動車利用や効果的な道路の活用に取り組む必要がある。

参考

コンパクトシティへの再構築のイメージ

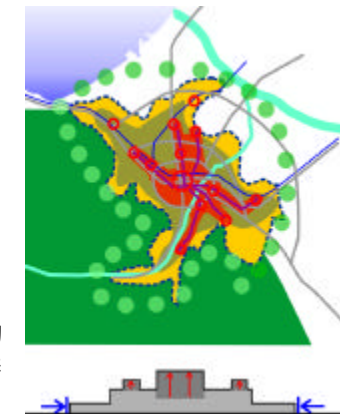
ア 全体的な視点から



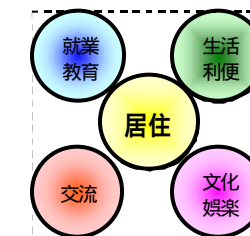
これまででは・・・
 新たな市街地を郊外に拡大・整備しながら都市の動向・課題に対応



これからは・・・
 市街地の拡大抑制を基調とし，既存都市基盤を有効に活用しながら都市の魅力と活力（質）を向上



イ 地域的な視点から



これまででは・・・
 ・各機能を明確に区分して配置
 ・拡大，拡散
 ・機能の純化



これからは・・・
 ・様々な機能が，居住機能を中心にまとまりをもって構成
 ・内部集約，まとまり（集積）
 ・機能の複合

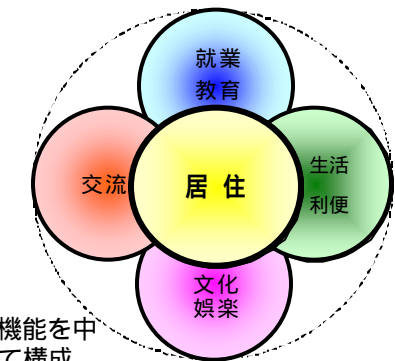


図 19 札幌市都市計画マスタープラン（素案）

主な社会資本の整備状況

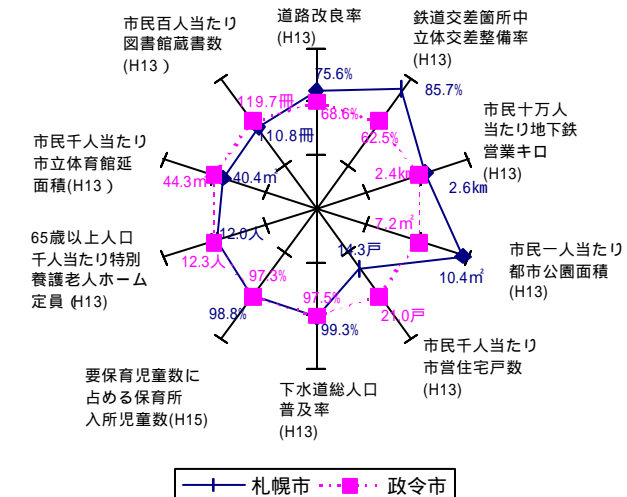


図 20 主な社会資本の整備状況（札幌市）

【基本目標】世界に誇れる環境の街さっぽろ
 【重点戦略課題】歩いて暮らせるゆたかで快適な街の創造

参 考

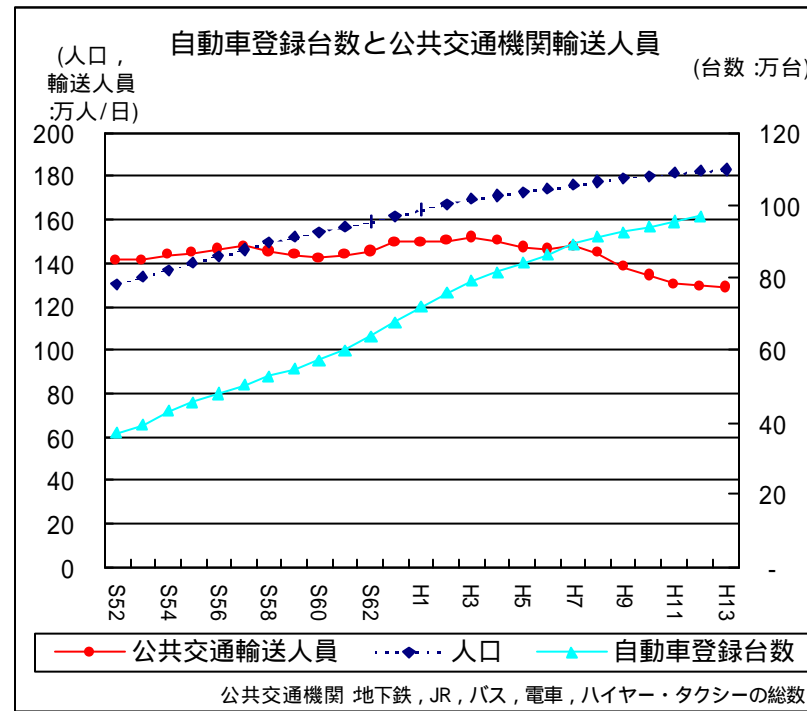


図 21 自動車登録台数と公共交通機関輸送人員 (札幌市)

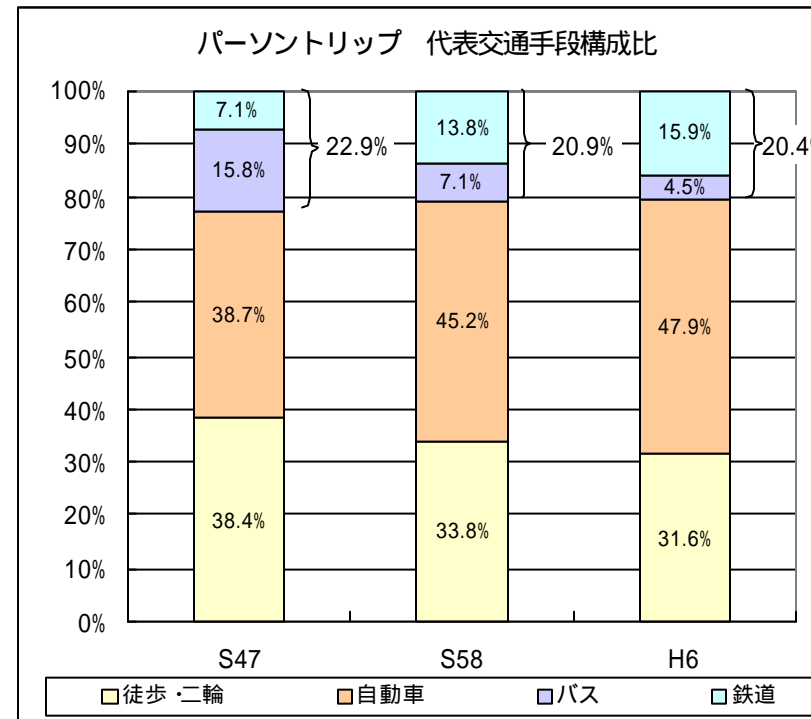


図 22 道央都市圏パーソントリップ調査

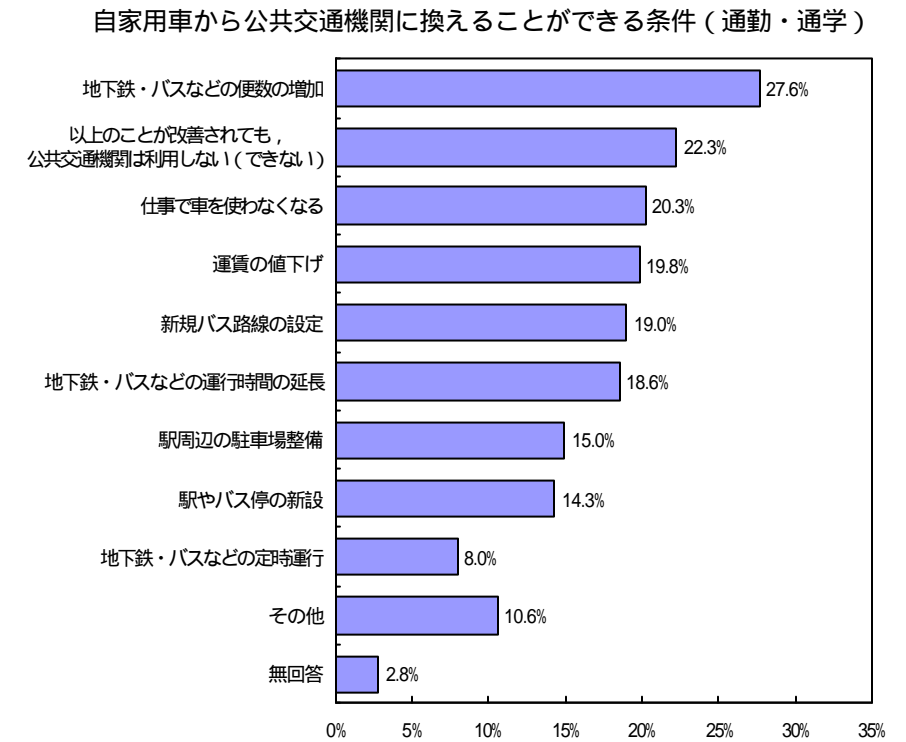


図 23 平成 14 年度第 2 回市民アンケート (札幌市)



図 24 歩行者や自転車で雑然とした札幌駅前通

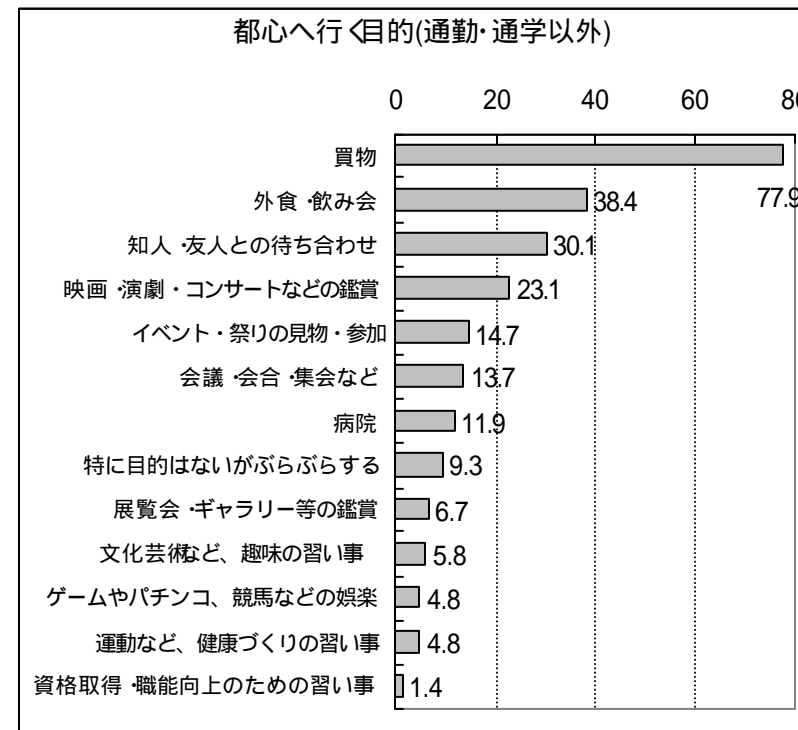


図 25 市民意向把握調査 (H13 札幌市)

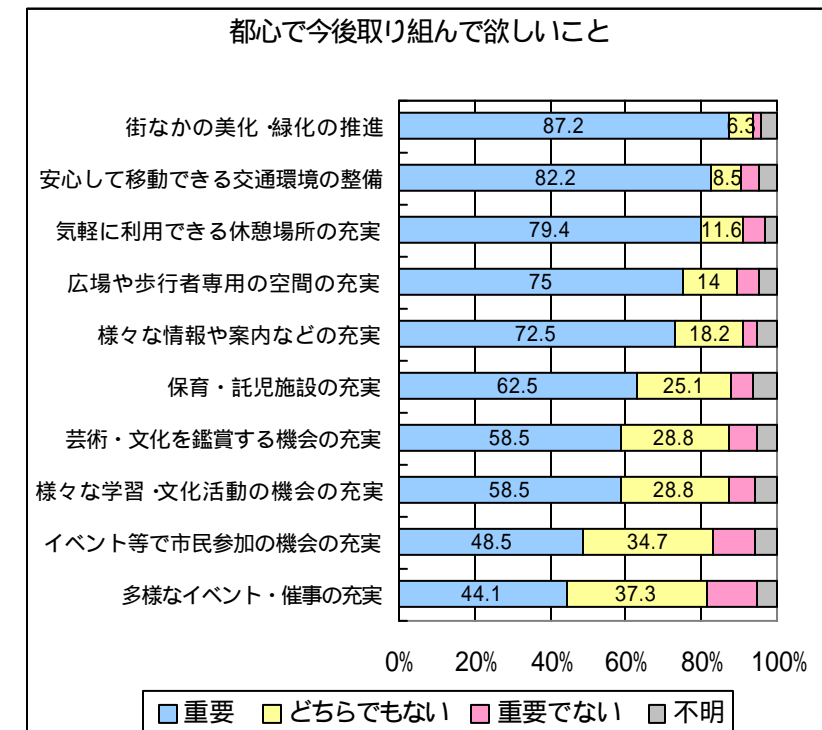


図 26 市民意向把握調査 (H13 札幌市)